

## 第3回OB活用全国会議 全国会議継続の意義とそのための知恵を討議

昨年10月23日、霜降とは思えない澄み渡った穏やかな陽気の下、(財)大阪科学技術センターにおいて、第3回目のOB活用全国会議が開催されました。

過去2回の会議より参加数が減少したとはいえ、全国から16機関31名の参加がありました。

時節柄、時間と費用を削減するために、プログラムは「各機関の業務内容とセールスポイントの紹介」と「課題と今後の展開に関する討議」に絞り午後だけの会議となりました。

時間は短くなりましたが、全国からお集まりの企業OB機関の方々がお互いに機関運営のポイントを披露され、また課題解決のために真剣に討議が進み、収穫の多い会議となりました。全国会議も3回を数え、遠慮をせずに話し合える関係が出来てきたことも意見が弾んだ背景にあると思われます。

また、全国会議の開催意義についても討議が行われ、「継続は力、全国会議継続」との結論に達しました。しかし、会議を更に拡大し充実させるためにどのように企画運営してゆくかについては、今後の課題として残りました。

次回の開催を引き受けたいとの意向表明があり、いよいよ全国会議も大阪から全国に巣立ってゆく可能性が出てきました。

以下、会議の詳細を報告いたします。



### 「全国会議の今までの歩み」

#### (第1回会議)

全国の企業OB活用組織がお互いの連携と相互の話し合いによりそれぞれの課題を解決する目的でATACが呼びかけて平成19年11月に2日間にわたり開催し、25団体63名の参加がありました。

講演会、工場見学と「組織の運営」と「クライアント確保」をテーマに討議を重ねました。

#### (第2回会議)

第2回もATACの呼びかけで平成20年10月に開催し、18組織53人の参加を見ました。

「組織の運営と活動の課題」をテーマにパネル討議を持ちました。講演と工場見学も合わせて企画されました。期間は一日でした。

## 「第3回全国会議の内容」

### 1. ATAC梶原委員長の開会挨拶

第1、2回のOB活用全国会議では、講演会やパネル討議、分科会などを企画実施しました。今回は趣旨を変えて、全国会議継続のためにどのように知恵を絞るか、全国会議の意義はどこにあるかに絞って討議してゆきたいので、出席各機関の責任者の忌憚のない意見を賜りたい。

### 2. 出席機関の自己紹介

16機関の代表者が予め準備された資料「第3回OB活用全国会議 参加者及び参加機関のご紹介」と各機関で準備された紹介パンフレットに基づき機関の形態、業務内容、セールスポイント等を3分間で要領良くご紹介されました。主な内容を以下に記します。

#### (機関の形態)

公的機関	1
組合	3
NPO	6
公益法人	2
会社(官制民営含む)	3
その他	1

以上のように多様な形態であることが分かりました。定型は無く各機関が活動に適した形態をとっていることが分かります。

#### (業務内容)

各機関とも、中小企業への経営支援、技術支援が活動の中心となっています。

企業支援だけでなく地域の産業振興や学校との連携で小学生教育、地域の環境保全活動や外国人教育をレポートリーに加えている機関があります。

構成メンバーは技術者中心、幅広い企業OB、等々々です。僅かですが女性会員が誕生してきましたことが特記されます。

最大の悩みはクライアントの確保と財務的な厳しさです。

対策として、企業訪問などの自助努力に加えて、公的機関の事業請負、銀行や信用金庫など金融機関との連携、商工会議所との提携など様々な工夫がなされておりました。

一方、会員の高齢化や育成などが大きな問題と分かりました。

### 3. 課題と今後の展開に関する討議

#### (連携)

ATACでは5兄弟機関のATACメイトと毎年1度集まって、各組織の問題など討議交流してきました。クライアントの相互紹介も始めています。この会合がOB活用全国会議に繋がりました。

OB活用全国会議参加機関の連絡先情報を一覧表にして共有して、連携の第一歩とすることになりました。

各機関の連絡先一覧表作成の賛同が得られたので、ATAC事務局が担当して作成することになりました。

#### (クライアント確保)

先ず、梶原委員長から、ATACの案件の



説明がありました。

活動対象を中小企業の技術支援に限定していること、創設以来18年間で700件、170社にコンサルティングとの説明がありました。

一方、ここ数年間件数が減少していること、自助努力の案件が少ないことが問題と指摘されました。

引き続き各機関からクライアント確保の紹介がありました。主な確保策を紹介します。なお、括弧内に発言者の名前を記しましたが敬称は省略させていただきました。

基本的には自分たちで歩いてクライアントを開拓していますが、案件は低減しています。

コンサルティング費用が問題になる場合がありある程度自由度を持たせているところもあるようです。(大川、早川)

また、個人的な人脈による紹介もあります。(早川)

他機関と案件の相互紹介をしています。紹介は有料が普通です。(大川他多数)



行政と提携して、外国人教育（棚木）や小学生教育（前岡）も事業に加えています。

県の技術相談員に登録するのも方法です。但しこの場合は個人契約になります。（津田）

モノづくり支援事業など助成金事業への申請を無償で支援し、認可後コンサルティング案件にしています（多数）。助成金事業の委託を受け、事業紹介申請支援を有料で行っているところもあります。（津田）

信用金庫からの紹介が相当数ある機関があります。（早川）

補助金申請は、官の事業の翻訳が必要なので民間独自で申請するのは無理ですが、官と連携を図るとよいとの意見がありました。（津田）

雇用対策事業も民間単独で申請するのは難しいのですが、行政との繋がりを受注を図るとよいとの意見がありました。

（津田）



地域力連携事業の活用により新規候補案件の発掘や、拠点と共同で事業を担当している事例の紹介もありました。（梶原）

経済状況が厳しい中、他の機関の取り組

み状況がお互いに参考になったことと思います。

官の助成事業の内容の理解と申請手続きなど理解習得してゆくことが事業拡大に有効であることが分かりましたが、王道である自助努力でクライアント拡大を目指す努力を再確認することも大事と思われます。

（メンバーの高齢化の問題）

各機関とも大変な問題と認識しています。

定年が近い若い人をリクルートしたり、特定のノウハウを持っている人を個人的に勧誘するなど若返り策の紹介がありました。

（メンバーの質の問題）

プレゼンテーションが出来ない、中小企業の経営者と話が出来ない、問題を自ら掘り出す努力や姿勢が不足している、このような問題が顕在化しています。

若手を育成するのが正攻法というのが共通認識ですが具体案が乏しいのが実態でした。

（来年以降）

大半の機関は全国会議継続の意見でした。

全国ネットワークづくりをテーマに補助金を申請し認可されたら、会議開催を引き受けたいと立候補の機関があり、その動向で次回開催地を決めることになりました。

全国に同じようなOB人材活用の組織が多数ありますが、遠隔地の北海道や東北を別にしても、全国の組織を仲間になりたい、そのための事務局を作りたいとの提案がありました。

また、「全国会議サイト（仮称）」を設け、機関間の連絡網を作り、意見交換をしたいとの提案もありました。

「結び」

今回は、議題も「課題と今後の展開に関する討議」に絞った会議でしたが、活発な意見交換が行われ、実り多い半日になったと思います。さらなる拡大と機関間の連携、および情報意見の深化が今後取り組むべき課題と思われます。（長田記）

## 第3回OB活用全国会議出席者

(順不同・敬称略)

No	機 関 名	所 属・役 職	氏 名
1	(有)イーテック	代表取締役 運営委員長	大川 治
2	伊勢市役所	産業支援課 係長	積木 哲史
3	伊勢市役所	産業支援課	福本 佳大
4	(株)カイゼン・マイスター		早川 英徳
5	キャリア・コンサルタント協同組合	理事長	栩木 義彦
6	近畿産業技術クラスター協同組合	常務理事	栗野 順二郎
7	(株)西条産業情報支援センター	ゼネラル・マネージャー	津田 雄造
8	STEP-21企業組合	理事長	川嶋 眞生
9	(社)日本機械学会	関西支部シニア会 会長	駒井 謙治郎
10	(社)日本機械学会	関西支部シニア会 副会長	山中 晤郎
11	NPO法人ノウハウ会	理事長	石毛 浩
12	NPO法人プラスチック人材アタッセ	理事・事務局長	田中 一伸
13	NPO法人山口県アクティブシニア協会	周南シニア人材マッチング バンク事務局	田邊 哲夫
14	ATAC・MATE岡山		倉重 博年
15	ATAC・MATE岡山		小笠原 忠司
16	ATAC・MATE岡山		廣谷 倫成
17	NPO法人ATAC・MATE奈良	代表理事	西野 宗治
18	NPO法人ATACひろしま	理事長	出羽 昭夫
19	NPO法人アタック・メイト和歌山	代表理事	前岡 秀幸
20	(財)大阪科学技術センターATAC	副会長	荒川 守正
21	(財)大阪科学技術センターATAC	運営委員長	梶原 孝生
22	(財)大阪科学技術センターATAC	副運営委員長	藪野 嘉雄
23	(財)大阪科学技術センターATAC	副運営委員長	深瀬 信重
24	(財)大阪科学技術センターATAC	運営委員	池田 隆果
25	(財)大阪科学技術センターATAC	運営委員	成富 辰雄
26	(財)大阪科学技術センターATAC	運営委員	吉田 良耿
27	(財)大阪科学技術センターATAC		多根井 重裕
28	(財)大阪科学技術センターATAC		長田 徹
29	(財)大阪科学技術センターATAC		宮本 雄二
30	(財)大阪科学技術センター	技術・情報振興部課長	脇坂 啓司
31	(財)大阪科学技術センター	技術・情報振興部	渡邊 敬介